

芹沢光治良先生を訪ねて沼津へ

2019年7月20(土)

1. 目的

- 1) 沼津芹沢文学愛好会代表の和田安弘様に6年ぶりに御挨拶。
いつも愛好会の情報をいただいている
- 2) 芹沢光治良記念館を訪ねる。
後で、企画展「光治良と川端康成」を知る
- 3) オプション
 - (1) 沼津御用邸
 - (2) 沼津港で食事

2. 和田安弘様に御挨拶

- 1) 6年ぶりに御挨拶させていただいた。
初めてお会いした時と同じように、おやさしそうであり、かつ思慮深い人間味を感じさせていただいた。
- 2) そして6年前の出来事が鮮明に思い出された。朗読会&ミニコンサート。

当日、小生にとっては、夢の様な出来事が起こるのである。開演午後1時30分からであったが、どうしても一番前に座りたかったので、12時に会場へ。

なんと！ロビーでお嬢様3名と和田様をはじめとするスタッフ方が御食事中の中に飛び込んでしまった。そこで、先生を尊敬している事、元文学会会員だった事、富士山一周の旅を今日終えた事、日本一富士山が美しく見える大月に住んでいる事などなど、話に花が咲き、最後には記念撮影まで。感動で声が震えていた。これは富士山一周徒歩の旅を今日やり終えた小生への芹沢先生の御褒美に違いない。

和田様とはそれ以来お付き合いをいただいている。



3. 芹沢光治良記念館を訪ねて

1) 記念館主事の剣持直樹様にはたいへん丁寧に企画展を御説明いただいた。企画展は豊富で工夫を凝らした展示物があり、更に御説明から十分に内容を理解することができた。

2) 図録から抜粋

『企画展「光治良と川端康成展」の開催について

光治良と川端はともに第一高等学校、東京帝国大学を卒業しますが、その後の進路は全く異なります。光治良は農商務省の官吏となり、フランス留学を経てのち作家となりました。一方の川端は大学在学中から創作に取り組み、早くから文壇に認められて作家としての地位を確立しました。ふたりは作家になってから本格的な交流が始まりますが、特に戦後の日本ペンクラブの活動において、世界に日本文学を広めることに尽力しました。そして川端の死去に際しては、光治良が葬儀委員長を務めるほどの関係になっていました。生まれも育ちも、その作風も大きく異なるふたりが、晩年に近い年齢において最も密接な関係を築くことになった、その不思議さの一端を解き明かす展示を企画いたしました。

企画展示は通年で行いますが、第一回はふたりの出生から昭和三十二(一九五七)年の第二十九回国際ペンクラブ東京大会開催までを中心に、第二回はそれ以降から晩年までを中心に展示します。今回は初公開の書簡等、貴重な資料をご遺族の協力により展示することができました。本展示を通して、ふたりの作家の交流について理解を深める機会となれば幸いです。

なお、本企画展開催にあたり、芹沢家、川端家をはじめ、資料提供並びにご指導いただいた関係各位に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和元年六月十五日

沼津市芹沢光治良記念館』

3) 小生の感想 (沼津朝日への 投稿文)

7月20日(土)6年ぶりに芹沢光治良記念館を訪問した。兼ねてより文学愛好会代表の和田安弘様よりお誘いを受けており、今般企画展「光治良と川端康成、」が実施されているということで是非とも拝覧したい願いで訪問させていただいた。拝覧の話の前に私の光治良先生と康成先生との出会いと印象について紹介したい。

私と光治良先生との出会いは1991年。90歳で書かれた『神の微笑』を偶然にも書店で見かけ、その本の前で何かに取り付かれた様に体が動かなくなってしまった。運命的な出会いを感じる。それ以来神シリーズ8巻、小説人間の運命、教祖様他10以上の小説を読んできた。今も尚、勝手ながら光治良先生を我が師と思って敬愛している。特に私が30代後半から40代に掛けて人間形成に相当な影響を受けている。光治良先生の印象は、芯はお強いがお優しい。冷静でおとなしいが、曲がったことが大嫌い、はっきりものを申す。縁の下の力持ちで大きな仕事をするが目立たない。家族や知人をとても大切にする。一言で言うと利他の人である。

一方、康成先生と出会いは私が20歳の時越後長岡の大学に3年次編入時だった。まさしく越後を舞台にした小説雪国は衝撃的であった。私は若さゆえの好奇心と女性

への憧れからその後康成先生の小説を20以上読み続けた。康成先生の文の綺麗さに魅了されて一時期は他の小説家の作品が雑過ぎて読めなくなってしまった時もある。私の20代前半で女性に対する甘美な考えや行動に相当な影響を受けている。康成先生の印象は、気が小さいところがあって我儘。人を選んではっきりものを申す。目立つことが好きで全面的に自分を主張する。女性を溺愛するが、家庭は持たない。一言で言うと自我の人である。

さて、記念館主事の剣持直樹様にはたいへん丁寧に企画展を御説明いただいた。今回の企画展の目的である“生まれも育ちも、その作風も大きく異なるふたりが、晩年に近い年齢において最も綿密な関係を築くことになった、その不思議さ一端を解き明かす”は、豊富で工夫を凝らした展示物や御説明から十分理解することができた。

その不思議とは先ほど述べた様なお二人の先生方の陰と陽程の性格の違いがうまく融合されて大きな力になったことであり、そのことが世界ペンクラブ東京大会を成功に導き、更には康成先生のノーベル文学賞受賞に結び付いたのではないだろうか。

更にお二人の綿密な関係の中での光治良先生の言動は、人間としてあるべき姿”自他の心“を我々に無言で教えてくれる。山梨県 折笠公德 61歳 エンジニア

4) 記念写真



4. オプション

1) 沼津御用邸

はじめての御用邸。神々しい中にも庶民的な雰囲気を感じた。



2) 沼津港で食事

食堂 海女小屋で海鮮バーベQ食べ放題を満喫。
たいへん美味しかった。

